

日本神経学会海外派遣プログラム：ローマ留学の御報告

北國 圭一

帝京大学脳神経内科

日本神経学会海外派遣プログラム 2019 年度フェロー

はじめに

2019年から2021年にかけて日本神経学会海外派遣プログラムに御支援をいただき、ローマにある Università Cattolica del Sacro Cuore 附属 Gemelli 総合病院の Luca Padua 教授の下へ留学いたしました。COVID-19 アウトブレイクの時期にかかり、ロックダウンに遭うなど苦労したこともありましたが、多くの得られるものがあり貴重な経験となりました。

研究・学術面での報告

留学先の正式名称、Università Cattolica del Sacro Cuore は聖なる心のカトリック大学と訳されます。このため、病院内に教会や礼拝堂があり、ときに修道士が病棟にミサに訪れるなど独特な雰囲気がありました。病院の施設そのものは古いものの最新の設備が整い、病床数も 2,000 近くあり、高次機能病院として近隣の医療の中核を担う施設でありました。私の院内での活動は主に三つで一つめは電気生理・神経超音波に関する研究、二つ目は病棟カンファ・ラウンドの参加、三つめは外来における実地での神経超音波検査の修練でした。

研究については、COVID-19 のパンデミックによる診療制限などがあり新規症例の獲得が難しくかなり難航しました。結果、日本で集めていたデータをもとに CIDP と ALS の筋超音波所見の違いに関する研究を Gemelli の医師と協力し発表することができました¹⁾。また、症例報告ですが向こうの外来で診た神経痛性筋萎縮症と頸椎症との鑑別が難しかった症例で神経超音波が鑑別に有用であったことを発表しました²⁾。COVID-19 パンデミックは公私とも大変な目には遭いましたが、研究面ではパンデミック下ならではの知見を得ることができました。私のいた施設は neurorehabilitation unit で、しばしば重度の COVID-19 後遺症の患者さんが転院してきました。Intensive care unit acquired weakness (ICUAW) を合併している方が多く、COVID-19 related ICUAW の特徴や、とくに電気生理医が不足している場合に MRI が代替検査となることを示しました。また ICUAW にマスクされ知らずに腓骨神経麻痺などの医原性圧迫性ニューロパチーを合併していることがあり、診断に神経超音波が有用であることもあわせて報告しました³⁾。さ

らにパンデミック下でのマスク使用と頭頸部神経痛に関する研究にも参加しました⁴⁾。

病棟ラウンド・カンファは日々の業務で (Fig. 1A)、レジデントと患者さんを診察しディスカッションするのが大変面白い瞬間でした。Neurorehabilitation unit というものの医師全員が neurologist ではなく、系統的神経診察を学ぶ機会が少ないようで私の知識や技術はレジデントにどうやらありがたかったようです。私なりに基本的な MMT、腱反射、病的反射の取り方や高位診断、少し突っ込んだ下垂足の鑑別法などを教えてきました。

外来では電気生理、神経筋超音波に関して多くの学びがありました。筋電図室には筋電計に加え超音波装置が併設されており、患者さんを診察後、必要な検査を適宜行うという診療スタイルでした (Fig. 1B)。神経筋疾患の診断の主軸は針筋電図、神経伝導検査などの電気生理学的検査で超音波検査は必要に応じて、とくに形態的評価が有用なものに対して行われていました。例えば神経外傷、神経痛性筋萎縮症、脱髄性ニューロパチーなどの一部です。疾患にもよりますが、意外にも電気生理学的異常に比べ超音波での形態異常の強さが合致しない例がしばしばあり、超音波検査はあくまで電気生理学的検査に相補的に働くものであることを多くの例を通して感じました。イタリアでも日本と同様、一人の患者さんにかかる時間は限られており、電気生理学的検査と超音波検査をフルに施行するというのはなかなか困難でした。「機能評価としての電気生理学的検査、形態的評価としての超音波検査、これら二つを効率的に組み合わせてどのように活用していくのか」このことを意識し日常臨床に応用していくのが肝要と思われました。

異文化交流

今回の留学では多くの学術的経験が得られました。一方でそれと同じか、それ以上に印象的な人との出会いや文化風習に関する発見もありました。

2020 年の夏、少しパンデミックが収まり、ロックダウンも明けた頃、なかなか研究が進まず、焦り、気分が落ち気味の私を気遣って同僚の一人が故郷の南イタリア Cosenza に招い



Fig. 1 (A) 朝のカンファレンス風景. (B) 外来筋電図室にて.



Fig. 2 (A) 同僚のDarioと(一番右)その家族と. (B) 医学生グループと.

てくれました。彼の実家に1週間ほどホームステイし、ローマでの生活とは違う、イタリアの田舎暮らし（彼にはちょっと失礼ですが）を体験することができました。夏休みは毎日ビーチに行くのが当たり前。朝から近くのビーチで過ごし、一度、家に帰って昼食後、siesta（昼寝）、またビーチに行き20時頃まで過ごし21時から夕食。夏はサマータイムのため21時頃に日暮れとなります。イタリアの夕食の開始時間が遅いことに驚きました。毎晩、家族全員が集い色々な話をしMammaの手料理とワインを時間をかけて楽しみました。同僚とその家族には本当に親切にしてもらい、緩やかな時間の流れで心身ともにリラックスし、その後の研究活動の原動力を得られたように思います。

病院でも面白いことがありました。2021年のクリスマスイ

ブに当直医師、コメディカルスタッフで食べ物を持ち合うpotluck partyに招かれました。カトリックである彼らにとってのクリスマスはそれは大切なイベントで故郷に帰り家族と過ごす大事なひとときです。この日の勤務はまさに、我々が正月の当直にぶちあたるかのような絶望感を彼らに与えるようです。そんな中でも院内のラウンジで和気あいあいと日頃の愚痴を語りあったり家族、恋人の話、病棟の患者さんのおもしろい話などで盛り上がるのは、こんなことは日本でもあったな、どこの国も一緒だなと思った瞬間でありました。ちなみにクリスマスイブの日、カトリックでは肉は食べないようで、振舞われた料理はシーフードがメインでした。「クリスマスに日本では某フライドチキンが好まれる」ことを話したところ、皆「Oh Dio（なんてこった!）」と驚き、信じられない

とのこと。日本のクリスマスの風習は歪んだものとなっているようです。話し合いの結果、クリスマス⇒お祝い⇒豪華な料理⇒七面鳥（アメリカの *thanksgiving day* に食べられる）⇒チキン⇒フライドチキンのような伝言ゲーム式に話がねじ曲がり今のスタイルがあるのだと結論づけられました。

また、予期せぬ出会いもありました。大学近くのパニーノ店に通ううちに、そこで Gemelli の医学生グループと仲良くなりました。パンデミックの最中であり、まさか日本人がいるとは信じられなかったようで大驚いていました。彼らは日本の文化、とくにマンガ、アニメに興味があり、私もまあ詳しい方なので一気に話が盛り上がりました。彼らとは友達感覚でしばしば家に招かれたり、出かけたりとプライベートでも親しみました。イタリアの学生にとってシェアハウスが当たり前で 2~3 人程度でアパートメントに住んでいます。コンビニのようなものはなく学生の自炊は当たり前で、度々、一緒に料理をする機会がありました。意外に、若い世代でもクラシックなレシピはこれだ！というこだわりがあり、素材、調理法などいろいろな tips を教わり私の料理の腕も上がったように思います。ちなみに「カルボナーラに生クリームを入れたら警察呼ぶぞ（笑）」とのことでした。

最後に

今回の留学は学術面にとどまらず様々な点で私を成長させてくれました。園生教授を始め、医局、家族にも支えてもらい、また日本神経学会にも御支援をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

文 献

- 1) Hokkoku K, Tsukamoto H, Uchida Y, et al. Different tendencies in muscle ultrasound characteristic in amyotrophic lateral sclerosis and chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy. *J Clin Neurophysiol* 2021;ahead of print.
- 2) Hokkoku K, Coraci D, Gatto DM, et al. Neuralgic amyotrophy with isolated mononeuropathy of the musculocutaneous nerve: a problematic differential diagnosis of cervical radiculopathy. *Acta Neurol Belg* 2021;ahead of print.
- 3) Hokkoku K, Erra C, Cuccagna C, et al. Intensive care unit-acquired weakness and positioning-related peripheral nerve injuries in COVID-19: a case series of three patients and the latest literature review. *Brain Sci* 2021;11:1177.
- 4) Padua L, Castelli L, Gatto DM, et al. Discomfort and pain related to protective mask-wearing during COVID-19 pandemic. *J Pers Med* 2022;12:1443.

日本神経学会では 40 歳以下の学会員を対象に、神経領域の基礎研究または臨床研究を目的とした海外留学研修を推進するため、毎年 11 月より「日本神経学会海外派遣プログラム」の募集を行っています。支援の決定者には旅費・滞在費として 100 万円が給付されます。